

4月チャプレン便り

「信頼をよせて」

小児科医で「しからなくてもしつけができる」の著者内藤寿七郎氏は、子どもというものは、こちらが信頼をもって接すれば、信頼にこたえてくれるものです。これを知ることがしつけの基本です、と語っておられます。

ある時、アトピー性皮膚炎が治らなくて困っている二歳児がいました。その子は、牛乳があわない体質でしたが、牛乳が大好きで、なかなかやめられませんでした。その子が、母親に連れられて、内藤先生のところへ診察を受けに来られました。先生が「牛乳やめようね、やめるよね。」といいました。はじめのうちは、先生の顔もろくすっぽ見ませんでした。しかし、先生が何度も何度も真剣にいいますと、そのうちかすかにうなずきました。

その後のようすを母親に聞くと、牛乳を全然飲まないといいます。あまりにみごとに飲まないで、母親が今日はどうかと思っ、あるとき牛乳をコップに入れて、おいしそうに目の前に置いてみたそうです。ところが、その子は手も触れない。それまでは、冷蔵庫の奥の方に隠しておいても自分で探し出してグイグイ飲んでいた子が。家庭でびっくりしたそうです。本当にみごとにやめたそうです。これは一つの例です。

できないのは、接するおとなの信頼と誠意が足りないからだということです。子どもだましとか、なだめすかしではなくて、我が子は必ずやってくれるという信頼をこめてまじめに約束をすることだということです。すると子どもは誰からいわれなくても自らすすんで、欲望をコントロールできるということです。それが二歳児にはできるのです。

口やかましくいたり、大声で怖い顔つきでどなったりしてはいけません。また、抑えつけたりしてもいけません。きっとやれると子どもを信頼して、子どもの心に問いかけることです。理屈もいりません。二歳児には理屈はまだわかりませんから。ただ、「やめてくれるよね。」と、目を優しく見つめ、誠実をこめて、信じて頼むことです。すると、それを了承して、記憶して、誰にいわれなくても自分で約束を守るようになります。

わが子に信頼をよせて・・・。